

英知通信



昭和54年11月30日

英知大学

No.26

新任のごあいさつ

―後援会と学生諸君に望みたいこと―

英知大学後援会会長 野口 徹



このたび図らずも名誉ある後援会長にご推挙いただき、その責任の重大さを痛感している次第でございます。他にも沢山適任の方がおいででございますが、お引き受けした以上甚だ微力ではございますが先輩が残された業績を受け継ぎ、それを更に発展させるよう努力いたしたいと存じておりますので、大学ご当局のご指導と会員の皆様のご援助をよろしくお願い申し上げます。

後援会のあり方

入会以来今日まで多くの後援会活動に参加させていただいている中からいくつかの後援会の意義を実感しております。それは会則にうたわれている目的そのものでありまして、本会には次の様な使命役割あるいは意味があると思っております。

一つは私共の子弟がお世話になっている英知大学がいろいろな面でより充実したものであるための援助を

することでありますがそれは単に財政的な援助を義務的にするだけでなく将来に向ってよりよい学習環境をつくり後世に残したいという心からの援助を協力してすることが大切だと考えます。次に小規模大学であるが故に達せられる意義として後援会員同志が相互に交流し親睦を深め、そこに一つの新しい世界がひろがるということがあると思っております。私達一人ひとりが得難いこの場を有効に活用したい、又活用できるようにしたいと考えます。

もう一つ大きな意義を私自身感じております。それはなまなましい実業界に身を置いている者にとって英知大学は一種の精神的オアシスに感じられるということであり、先生方と話し合うことにより、大学の諸活動の雰囲気になれることにより、日頃の忙しい生活からしばらくはなれ静かに物事を考えてみる事ができる―それがキリスト教精神に基づいた学園が生み出す雰囲気ではないかと感じている次第です。人、一人ひとり、人生観、宗教観がことなることは当然であります。一つの意義ある場としてとらえ自分自身のために活用したいと考えております。

学生の皆さんへ

物心共によい環境の中で四年間の学究生活ができることは皆さんにとって大変、幸なことでご同慶にたえ

ません。ぜひ貴重な四年の歳月を有効に活用していただきたいと思っております。ここで私の老練心から懸念することはいくつか申し上げますので参考にしていただければ幸と思えます。物心共にめぐまれた環境、殊に行きとどいた先生方の精神的な支えに甘え、過保護に通じないかということですが、それは学生諸君一人ひとりの受けとめ方の問題があると考えます。四年間の大学生活の意義にはいろいろありましようが、その一つに学窓を巣立ったあとと実社会において世の中のために貢献できる準備をととのえることがあると思えます。

学問としての充実はもとより人間として自立して行く準備が必要でしょう。そのことを考えるとき、皆さんがどのような道にすすまれようと、そこには予想以上にきびしい環境が待っているということ―その中を自力で進んで行く力を学園生活を通じて習得してほしいと思えます。皆さんが自分自身を鍛えるための機会、場、相手として学内には熱心な先生方、学友、研究活動、スポーツ等々いくらでも求めれば限りなく豊富であります。それを求めるかどうかは皆さん次第です。どうか皆さんの大学生生活が一刻も無駄なく意義あるものとして活用されるよう期待いたします。

おわりにあたり私達の英知大学がますます、すぐれた教育の場として発展されるよう願ってやみません。

昭和五十四年度

英知大学後援会

新役員決まる

総会の席上、会長・副会長・監査が選出されたので、会則第七条により、会長が常任理事を委嘱して役員

全員が次のように決まる。(敬称略)

- 会長 野口 徹
 - 副会長 井穴 寛
 - 同 和田 義次
 - 常任理事 関 忠
 - 同 桑野 博昭
 - 同 松田 利明
 - 同 浄間 政雄
 - 同 網谷 義郎
 - 理事 佐々木義隆
 - 同 東 功
 - 同 北原啓三郎
 - 同 中川 優
 - 同 谷本 博
 - 同 芝谷 昭三
 - 同 岡田 和一
 - 同 山西 寅男
 - 同 広野 洋逸
 - 同 田中 良一
 - 同 阪本 登
 - 同 道野 裕
 - 同 監査
- なお、お子様が昭和五十四年三月に卒業になりましたので、役員を退任された方々は次の通りであります。

- 会長 福田 健彦氏
 - 副会長 深井 久男氏
 - 同 田中 義一氏
 - 常任理事 小林 茂氏
 - 同 牧 莊一郎氏
 - 同 田淵 正夫氏
 - 同 監査 中畑 孝氏
- この方々は四か年の長きにわたり引続き本会の役員として、本会発展のためにご尽力を賜り、おかげをもちまして、本会が今日の如き確固たる基礎が出来上り、発展を遂げました。そのご功績に対し、本会は衷心より感謝申し上げます。

今後とも英知大学発展のために御協力下さいますようお願い申し上げます。と共にご健康をお祈りいたします。

第五回英知大学 後援会総会を開く

一、日時 六月九日(土) 午後二時半

一、場所 英知大学本館三〇一教室
一、出席者 一〇六名

年を追う毎に出席者もふえ、本年は一〇六名という多数の出席があり大阪・兵庫・京都・奈良・和歌山などの近府県が大部分でありましたが本年は特に長崎・敦賀などの遠隔の地から態々出席される熱心なご父兄もある中に、次のように総会は始められました。

1 開会のことは

深井副会長より多数の出席を得まして開会の出来まことは、よろこばしい次第でございます。この上は十分な協議をお願いいたしますと開会を告げられた。

2 会長あいさつ

本日は、昭和五十四年度の総会を開きましたところ、かくも多数の出席をいただきました、厚くお礼申し上げます。
英知大学後援会は本年をもちまして、六年目を迎えたわけでございます。その間、大学は環境の改善充実に力を入れられて、このような立派な大学となり、またその上に鉄筋三階建の学生会館が建設されることを承っております。これによって大学として、すべてが整った充実した大学となりますことは、会員の皆様方の心よりのご援助の賜でありまして、ささやかながらも

後援会が大学の発展に寄与できましたことに対し、会員の方々に對し心より深く感謝申し上げます。

本日はご案内いたしました次第によって議事がございますが、よろしくご審議の程をおねがいたします。

3 理事長あいさつ

安田理事長は、教会の急用のため心ならずも欠席せられたので岸前学長理事がかわってございさつを申し述べられた。
英知大学の後援会は創設以来五年を経過して六年目を迎えたばかりでございますのに、会員の皆様方の並々ならぬご協力ご援助をいただき確固たる基礎も出来、その上会員相互の結びつきもかたく世に誇る後援会が生れましたことは、この上もないよろこばしいことでございます。また毎年後援会より、多額のご寄付をいただきありがとうございます。今後ともよろしくおねがい申し上げます。

4 岸前学長退任のあいさつ

初代田口学長の後をついで学長に就任した時は、恰も学生運動のさ中でした。それ以来十年余り、その間学生運動も起らず、大学教育に専念すると共に、環境整備に意を注ぎ今日まで環境を造り得ました。これひとえに皆様のご援助の賜と感謝いたしております。ほんとうに長い間ご父兄の皆様、後援会会員の方々に卒業生の皆様ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。後任は私の最も尊敬し信頼している傘木副学長が学長に就任されました。私同様よろしくおねがいいたします。今後は新学長を中心として英知大学も益々発展されることと信じますと結ばれる。

5 傘木新学長あいさつ

この度図らずも学長に就任いたしましたことになりました。浅学菲才の身であります。懸命の努力を捧げ神さまのご援助により、岸前学長が立派に當んでいられた英知大学を発展させたいものと意気込んでおります。しかしこれには、ご父兄の方々、後援会の方々、同窓会の方々のご援助を賜って、その責を果たすことが出来ると思っております。今後ともどうぞよろしくおねがいたします。

6 岸前学長に記念品贈呈

本大学長として、十年余り尽力され、本学の基礎を作りあげられた岸前学長に対し、理事会の決議に基づいて、記念品料を福田会長より、総会の席上渡さるや、感謝の拍手が萬雷の如くわき起り、しばし、贈る者も贈られる者も感激にひたる。やがて岸前学長より感謝のことばがあつて贈呈を終る。

7 学長先生のお話

次に傘木学長先生より、英知大学の使命について、約四〇分間にわたり要旨次のような講話があり、会員に感銘を与えた。
「豊かな人間教育を」と心掛けていたが、今日の若者には、漫画の読み過ぎか、家庭での対話の欠乏か、ことばの貧困ということを感じ、これが一番根の深い重大な問題だと思ふ。外国語の勉強のためにも、ことばの根本的な素養のできていないことが大きな障害となる。自閉症的な、人格的交りのもてない人間は、たとえエリートコースを進んでも、人間として失敗である。家庭も学校も、そして大学も、力を合わせて人間をつくるという事業に取り組んでいきたい。本学は国際性豊かな人間形成をモットーにしているが、外国語や外国文化の知識をいくら積んでも国際人とはなれない。真の国際人の条件は第一に、人間としての深さ・豊かさということである。本学はカトリック大学として、カトリシズムの確固とした価値観・人間観に基づいて、真に人間らしい人間、真の国際人を養成することに力を尽すとき、この日本の社会にかけがえない貢献をすることが出来るであろう。そう願って今後とも努力していきたい。

議事

会則第十一条により、会長が議長となり議事を進める。
1 昭和五十三年度決算報告
議長の名により石田書記が別紙決算書に基づいて、各項目について説明、助成金については

大学より配分表のように使途されたことを説明。

2 監査報告

野口監査より、帳簿・証拠書類等すべて完備され、その会計処理が適正に行われていることを証明します。との報告があつて満場一致異議なく承認さる。

3 昭和五十四年度予算案審議

議長の指名に基づいて、石田書記より別紙について説明、本年度の新入生より入会金が一万円会費三万円夫々増額になったことと、本年度は在学生の四年生のみが会費を納入することになっております。また助成金は全額を学生会館建設資金の一部にあてることにいたしておりま、と説明。それに対し何等の異議もなく満場一致原案通り承認決定。

4 役員改選

会則第九条に役員任期は一年となつておりますので、改選せねばなりません。が、如何にして改選いたしましたようかとはいはれず、会員の中から理事会で案があるならば発表してほしいとの意見があり、拍手がわきおこつて賛成の意を表わされる、そこで会長より次のように発表される。

- 会長 野口 徹(新任)
 - 副会長 井穴 寛(新任)
 - 同 和田 義次(新任)
 - 監査 阪本 登(新任)
 - 同 道野 裕(新任)
- 発表が終るや賛成の拍手が盛大に起り満場一致原案通り異議なく可決決定。

5 新会長あいさつ

野口新会長は、私はとうていその器でございせんが、会員の皆様からご推挙をいただきましたし

6 会則の改正

たので、最大の努力を捧げますととも、役員並びに会員の皆様の心からなるご協力をいただきまして、その責を果したいと存じておりますからよろしくお願いいたします、との力強い決意のみなきがたごあいさつがありました。

7 感謝状の贈呈

去る五月十九日の役員会において、今より一層強力な後援会にするために、卒業なさった旧役員の方々にご協力を願うようしようではないかとの意見が出され、名譽役員ということにし、総会にはかり、賛成されれば会則の一部改正ということになり、本日の総会にはかることとなったわけでありました。新会長からこのことについて説明されて大賛成され、愈々会則の改正となり次の原案を石田書記より説明、原案は第七条に名譽会長と名譽役員を設けること。第八条に名譽会長は会長の委嘱とすることと説明され、原案通り可決される。

8 閉会のことば

福田前会長、深井・田中両前副会長は四か年にわたり、後援会の揺籃時代からご尽力をいただき今日の確固たる基礎を作りあげて下さったご功績に対し、野口新会長より感謝状に記念品を添えて贈呈、会員一同より万雷の拍手によって感謝し贈呈を終る。

茶話会を開く

総会が終わるや茶話会に移る。恒例の茶話会でご父兄もお待ちかねの様子がかがわれた。始めに野口新会長より、なごやかなうちに、お互が打ちとけて、話し合い親睦を深めていただくことが英知大学がよくなる根本でありますと、ごあいさつがあつて、茶話会は食卓を囲んでのグループ毎に話はずむ。その中に自己紹介や感想などが次々と発表され、何ともいえずなごやかな雰囲気にははずみ、盛り上がる。かくて、大学とご父兄との絆が一層強くなったことを信じ、なごやかなお茶の会を終る。

後援会主催 第五回親睦パーティを開く

十一月三日、近年にない暖い秋日和に恵まれた文化の日に、英知大学では大学祭が行われ、この日に後援会では例年の通り、親睦パーティを次の順序で催しました。

- 1 開会のことば 井穴副会長
- 2 会長あいさつ 野口会長
- 3 学長あいさつ 傘木学長
- 4 乾杯 野口会長

会食・懇談

5 閉会のことば 和田副会長
本年のこのパーティは、先生と親たちが、わが子の教育について、膝を交え打ちとけて十分に話しあい、英知大学の教育理念を理解し、延いては親密さを一層深めることとしましたので、先生は三二名、親たちは一二一名という多数の参加者がありました。特に本年はご夫婦お揃いでご参加下さった方が三組もありましたのは、この心もちの表れでありましょう。かくてこそ懇談に移るや各学科別のテーブルでは、先生を囲

んでの打ち解けた話しあいはずみ熱気の溢れた雰囲気包まれ、予定時間をはるかに越えて真剣に取りくまれ、各自が豊かなみのりを胸に秘めて、満足感を味いつつ、夫々が大学祭へ足を運ばれた。



第十六回 英知祭盛大に開催

十一月三・四日の二日間、「無制限りなき可能性の暗示」をテーマにして、実行委員長寺山善之君を中心として、実行委員長が協力して、苦心に苦心を重ね工夫に工夫をこらし練りに練った英知祭は実に見事なすばらしい出来ばえであった。英知祭も年を追う毎に充実し着実に運営されて、堅実な歩みを続けている。今年も例年より短縮され二日間になったが、若者の持てる力をフルに結集してこの成果があがったものである。
英知祭は田吾作大行進から始まり数々の文化発表が二日間にわたり行なわれ、親たちはイスパニア劇や英語劇の方へ足を運ばれた方が多かった。かくして最後にファイヤーストームによって幕が下りた。

英知大学後援会 昭和53年度決算書

自 昭和53年4月1日 至 昭和54年3月31日

項目	金額	備考
入会金	5,340,000	2万円×267人 新1年生分
会費	10,840,000	4万円×271人 新1年生分
年会費	4,310,000	在学生(34年)納付分
雑収入	262,359	銀行利子・パーティ会費
繰越金	1,416,917	
収入合計	22,169,276	

項目	金額	備考
助成金	20,000,000	英知大学への助成金
事業費	814,400	総会費・パーティ費
事務費	101,750	通信・印刷費等
会議費	110,250	
慶弔費	57,330	弔電料・見舞金
雑費	-	
予備費	40,000	
繰越金	1,045,546	
支出合計	22,169,276	

3 差引残高無

英知大学後援会 昭和54年度予算書

昭和53年度 後援会助成金配分表

英知大学

総額 2,000万円

(内訳)

第4条第1項	1,230万円	エレベーター新設助成金
	560万円	トイレ、シャワー、脱衣室の新設費
第4条第2項	100万円	教員研究費一部助成
	50万円	学生奨学金一部助成
第4条第3項	60万円	南山敬遠征助成

自 昭和54年4月1日 至 昭和55年3月31日

項目	金額	備考
入会金	7,920,000	3万円×264人 新1年生分
会費	21,280,000	8万円×266人 新1年生分
年会費	1,560,000	在学生(4年生)会費納入推定
雑収入	200,000	銀行利子 その他
繰越金	1,045,546	
収入合計	32,005,546	

項目	金額	備考
助成金	30,000,000	英知大学への助成金(学生会館建設資金)
事業費	900,000	総会費・パーティ費
事務費	200,000	通信・印刷費等
会議費	150,000	
慶弔費	300,000	
雑費	155,546	
予備費	300,000	
支出合計	32,005,546	

3 差引残高無

同窓会の近況

去る六月十三日、大学側の御理解のもと、同窓会主催の懇親会が催された。大学側からは、森木名誉会長、土田学長補佐、ペーキ文学部長、堀内総務部長、松本学生部長、また、同窓会からは福原会長をはじめ、各役員及び英知在職OB等が出席し、終始和やかな雰囲気の中で大学創立当時の思い出や苦勞話に花が咲き、今後の母校への同窓会の協力態勢について話し合われた。また引き続き七月十一日には、第一回同窓会運営委員会が開催され、新役員の見定が行なわれ、更に同窓会運営委員会を充足させ、より充実した同窓会の形成をめざすこととなった。

この懇親会と運営委員会の二つの集まりで我々OBが共通して考えたことは、同窓会活動を如何にして発展させるか、同窓会として学校側に何を為すべきかということであった。同窓会は自然の成長プラス努力によってはじめて息ぎ長く存続し、延いては大学の発展に貢献すると考えられる。あの名だたる上智大学も発展途上は言葉では表現できない苦勞があったに違いない。これからは我々同窓生が大学側に頼るだけの甘えた姿勢ではなく、大学発展の一端を担うのだという気持ちで臨まなければならぬとの決意を新たにされた。

この度、同窓会の長年の懸案であった「同窓会だより」が本年十一月創刊される運びとなり、同窓会のより大きな発展へのスタートが切られることとなった。

ここに、常々同窓会に御協力下さっている学長をはじめ諸先生方、在学生及び同窓会の皆様にご協力いただき、謝の意を表し、今後とも御協力を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会書記 玉手康雅記



体育と最近の若者

講師 花野俊昭

体育の重要性

社会が豊かで便利になった反面、健康や体力の低下が目立っている。運動不足からくる諸疾患やストレスに原因するノイローゼは増加しており、国民の健康は深刻になってきている。特に体力の低下は中高年に集中しているが、除々に次代を荷する若者にも影響を及ぼしている。今日では、国家的な立場から社会体育の振興がはかられており、生涯体育の観点から学校体育の役割が大きい。とりわけ大学は将来の社会の指導者や協力者としての人材を育成する機会だけに、健康や体力の問題をしっかりと位置づけることは、極めて重要である。体育は平凡なものであるが、長い目で見ればきつと国民の活動力の源泉となる。

今の若者は

こうした要請に添うべく本学では改善に改善を重ねて、実施しているが体育実技は何と云っても継続性が必要なもので出席を重視している。この時期は特に女子は運動がおっくうになり勝ちであるが、いざ始めるとよく頑張っている。やはり単位という機会を与えてやる必要があると感じている。そして、健康やストレスの解消もまた他の科目と違って、友達として身近に感じられることが学生は嬉しいようである。むしろかたい授業の合間に一杯、体を動かすことが生活のうるおいや活力につながっていると思う。一般学生にとっては授業が唯一の運動の場になっているようである。しかし今の学生の身体は余りかたばしいとは言えない。それは他の先生も同じ思いである。

英知大学学生として

英文学科二回生 北原恵子

猪名川を渡り、足速に坂道を降りていくと直ぐに、煉瓦色の校舎が見えてくる。一昨年新しくなったばかりの図書館前の一郭は英知大生のお気に入りの場所らしい、時計台やチャペルの噴水の回りには、いつも数組のグループが集まっては、何やら楽しそうにしている。

この英知大学に通い始めて一年半が経過した。私も先輩と呼ばれる身分になったところで、無我夢中だった一回生の時とは違って少しは客観的に我々大学を見られるようになったのではないだろうか。

私達が大学について云々する時、建て物やその他の設備について言うのではなく、当たり前ながら、そこで学ぶ学生を取り上げて話すものだ。英知大学はというと、今の二回生が入学する前年と比べると、図書館、研究棟の新設、更に本年度には学生会館も建つ等、確かに設備の上では充実してきた。しかしそれらを利用する側の学生はどんなものだろうか。

この大学の特徴を形作っている要因の大きなものに、学生数の少ないことが挙げられる。およそ千人の人数では知らない顔などない程である。先生方もよく学生の名前を覚えていて、道ですれ違ったりすれば一言二言言葉が交わされる。こうしたところに全員が協力して全学一体の家庭的な雰囲気醸し出そうという協調の精神が生かされているのだから。

内に於いてはそれでいい。しかし家庭的だという意味がいつか、穩健的で若者に求められるラディカルな

躍動性を欠いた性格を帯びるならばそれは大いに問題であり、それこそが英知大生の上に霧となって覆っている無関心さの原因ではないだろうか。だが霧にも晴れ間がある。献血運動に協力する学生数が多いという事実等は、社会の中での健康者の役割を、多くの学生が自覚していることを証明してくれた。まさにこれを始めとして私達は自分達の外にもっと目を向けるべきではないだろうか。ただ知識を学ぶだけでなく、真に人間を生かす知恵である『英知』を追求していかねければならない。今日も図書館前の赤煉瓦の上に腰を下ろしながら自分自身にも課されているこの大きな課題を、改めて心に刻み込み、楽しそうに話している友人の顔にうなづいている私である。

(研究だより)

OG・ペーキ教授最近の研究著書 『JESUS TITKA』 (JESU ON SHIMPI) 出版社 VALLAS ES ELET (Shuppasha)

PARMA(OHIO)1979,7.71

(編集後記)

次号には、先生方の研究を掲載する予定。このたびは記事の關係上お一人になりましたことをおわびいたします。

英知通信

昭和五十四年十一月三十日発行
編集 英知大学
学長広報室

兵庫県尼崎市若王寺苗田
一〇〇の一
電話(06)四九一―五〇八三
六六一